



ツルカミカワスゲ	<i>Carex sabyensis</i> Less. ex Kunth var. <i>rostrata</i> (Maxim.) Ohwi	絶滅危惧I類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定される上に、もともとの個体数が少なく、継続的な減少が予測されるため。	<p data-bbox="1043 367 1241 398">写真(清水英彦)</p> 
形態の特徴	匍匐枝を伸ばし、叢生する。基部は褐色。苞は有鞘、糸状～針状で目立たないが、最下のものは小穂より長い。頂小穂は雄性、棍棒状で太い、雄鱗片は褐色、鈍頭～鋭頭。雌小穂は上部にかたまり、雌鱗片は黄褐色～褐色で中脈緑色、鈍頭～鋭頭で短芒端、果胞より短い。果胞は有毛、有脈、嘴は短く、口部は明瞭な2齒。花期は6-7月。	
生態的特徴	山地の草地や疎林内に生育する多年草。	
分布状況	本州・九州(中部以北)に分布し、岐阜県では県南東部に分布する。	
減少要因	開発に伴う草地の消失、山林伐採。農耕地の改修工事。	
保全対策	山林の保全。昔ながらの草地や農耕地の維持。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005.「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本眞理子. 2011.「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	